

戦国大名 佐々木六角氏の 基礎研究

村井 祐樹 著

これまで、戦国期畿内の政局における重要性は広く知られながら実証的な研究が不十分であった戦国大名佐々木六角氏について、可能な限り一次史料を用い、六角氏や家臣の動向、実態など基礎的事実を明らかにする。

また附編として、応仁元年(1467)～元和6年(1620)の、六角氏及び家臣の名が見える記録類を全て網羅した230頁におよぶ史料集の稿本を付し、『戦国遺文 佐々木六角氏編』とあわせることで、戦国時代の佐々木六角氏関係史料はほぼ全て集成し得ることになる。

定価 12,180円(税5%込)
A5判・530頁/ISBN978-4-7842-1663-5
2013年1月刊行予定

◆◆内容目次◆◆

序章

第一部 佐々木六角氏と家臣団

第一章 戦国時代佐々木六角氏の動向

一、高頼期

応仁～文明年間/長享～明応年間/明応～永正年間

二、氏綱期

三、定頼期

明応～大永年間/大永～享禄年間/天文年間

四、義賢/義弼期

天文・弘治年間/永禄年間/観音寺騒動以降

第二章 佐々木六角氏家臣団の実像

一、六角氏家臣団の分析

御内書・陣立等に見える家臣の個別検討/その他の家臣

二、六角氏家臣団の分類

「陣立」・御内書に見える者/その他の家臣/奉書の署判者

補論 戦国期佐々木六角氏家臣名の再比定

第三章 佐々木六角氏家臣団の結合形態

一、相論の前提

二、芦浦安国寺相論

後藤氏の借錢/相論の展開/争点の変化

三、家臣団連合の実像

経済的困窮/「親類」と「間柄」/家臣間紛争に対する当主の位置

第二部 佐々木六角氏と領国

第四章 佐々木六角氏領国の荘園三村庄とその代官

一、三村庄について

成立と伝領過程/位置/東寺の掌握していたもの

二、三村庄の代官

第五章 佐々木六角氏と近江国内外交通

一、六角氏権力と保内・枝村紙荷相論

二、六角氏と北伊勢

十五世紀末の六角氏と北伊勢/梅戸氏の掌握/その他の伊勢国人の掌握/本願寺証如と大館常興の認識

三、六角氏と領国内交通

琵琶湖水運/京都との関係

第六章 佐々木六角氏発給文書と領国

一、問題の所在

二、戦国期「室町幕府一守護体制」論の再検討

守護代伊庭氏と室町幕府/六角氏と幕府奉公衆朽木氏/伊勢における六角氏

三、地域権力の確立—発給文書の分析から—

領国内諸勢力と六角氏発給文書/村落における相論・裁判

終章


附編 戦国時代佐々木六角氏関係記録史料集(稿)

成稿一覧/あとがき/人名索引

むらい・ゆうき…1971年生、早稲田大学政治経済学部政治学科卒、同大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、現在 東京大学史料編纂所助教。[編著]『戦国遺文 佐々木六角氏編』(東京堂出版、2009)『戦国遺文 瀬戸内水軍編』(共編、東京堂出版、2012)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	戦国大名佐々木六角氏の基礎研究		本体11,600円(税別)	ISBN978-4-7842-1663-5
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

本書HPのQRコード

書店番線印

織豊期主要人物居所集成

藤井讓治編

織豊期を生きた政治的主要人物の移りゆく居所の情報を編年でまとめた研究者・歴史愛好家必携の書。各章は「略歴」と「居所と行動」で構成され、現在知りうる限りの居所情報を編年で掲載。政権の中心人物、政権中枢の人物、有力大名、有力武将、僧侶・文化人、公家、政権に関わる女性たち、総勢25名を収録。

▶B5判・476頁／定価7,140円 ISBN978-4-7842-1579-9

戦国大名権力構造の研究

村井良介著

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

▶A5判・452頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1610-9

※戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界

鹿毛敏夫著 思文閣史学叢書
西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明かす。

【内容】第一部 中世都市の構造と特質／第二部 大名権力の流通政策／第三部 大名権力の対外交渉

▶A5判・300頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1286-8

※戦国大名武田氏の研究

笹本正治著

甲斐武田氏を素材にして、戦国時代の国境の在り方、棒道に代表される道の意味、国人領主を支配下に組み込む過程、さらに民衆の側から見た戦国大名、職人・商人の支配構造を明らかにしていく論考14篇。従来の研究に対し「あまりに武田氏の権力を大きく評価しすぎたのではないか」とする著者は、いくつかの問題を投げかけている。

▶A5判・440頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0780-5

※戦国期東国の都市と権力

市村高男著

東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を分析、それとの関連で都市（城下町）の実態を追求。

【内容】第一編 東国領土の権力構造／第二編 北条氏と東国領土／第三編 東国の戦国期城下町

▶A5判・580頁／定価11,340円 ISBN4-7842-0855-0

※中世寺院社会の研究

下坂守著

比叡山延暦寺を主たる対象とし、惣寺一僧侶たちによる合議一を基礎単位とした中世寺院の広がりを寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。惣寺がいかなるものであったかはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

▶A5判・598頁／定価10,290円 ISBN4-7842-1091-1

近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域（「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究する。

▶A5判・464頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1551-5

石山寺の信仰と歴史

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

石山寺の信仰・歴史・美術・文学・経典を、第一線の研究者が、豊富なカラー図版とともに解説。オールカラー、図版150点。【内容】観音信仰と巡礼の寺（頼富本宏）／創建とあゆみ（綾村宏）／仏像と絵画の荘厳（宮本忠雄）／伽藍のすがた（山岸常人）／紫式部と『源氏物語』（奥田勲）／聖教の伝承（沼本克明）

▶A5判・180頁／定価1,890円 ISBN978-4-7842-1387-0

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来【内容】Ⅰ政治史を読みなおす [公武関係を読みなおす] 松永和浩・桃崎有一郎 [都鄙関係を読みなおす] 山田徹・吉田賢司・平出真宣・尾下成敏 Ⅱ社会史を読みなおす 西島太郎・清水克行・三枝暎子 Ⅲ経済史を読みなおす 早島大祐・高谷知佳 Ⅳ宗教史を読みなおす 大田壮一郎・安藤弥

▶A5判・408頁／定価4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

※瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を解明。

【内容】第一編 瀬戸内海社会の形成と展開／第二編 瀬戸内海社会の発展と地域権力／第三編 地域権力と織田権力の抗争

▶A5判・396頁／定価7,560円 ISBN978-4-7842-1333-7

戦国大名武田氏の権力構造

丸島和洋著

戦国大名はどのような伝達ルートを通じて家中の内外との意思疎通を行ったのか？本書は甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討と併せて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つけ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。

▶A5判・432頁／定価8,925円 ISBN978-4-7842-1553-9

※戦国期関東公方の研究

阿部能久著

関東府の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鏖阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

▶A5判・320頁／定価5,985円 ISBN4-7842-1285-X

※戦国期権力佐竹氏の研究

佐々木倫朗著

室町期から戦国期にかけ、佐竹氏がどのような過程をへて権力形成を行ったのかという基礎的な課題をはじめ、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりやその地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を通じて考察することで、従来捨棄されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。

▶A5判・304頁／定価6,090円 ISBN978-4-7842-1569-0

中世村落の景観と環境

山門領近江国木津荘

水野章二編
近江の湖西、高島郡の木津荘（現・新旭町）は、山門の寺務機構が管理・運営する天台座主直轄の重要荘園である。本書はこの木津荘に残る検注帳・引田帳ほか文献の詳細な検討、地表に残されている用水路や水田の形状、地名・伝承など「生きた文化財」の調査から、山門領荘園の実態と中世村落の景観に迫る。

▶A5判・392頁／定価7,140円 ISBN4-7842-1198-5

環琵琶湖地域論

西川幸治・村井康彦編

滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。【内容】近江という地域／中世商業村落の生活と環境の整備／人と自然の関係史素描／江戸時代における琵琶湖の鳥獣について／琵琶湖湖底遺跡の研究／内湖のあった生活／溜池のある風景／近江のムラの文化を考える 他

▶A5判・340頁／定価7,350円 ISBN4-7842-1175-6

祈りの文化

大津絵模様・絵馬模様

信多純一著
江戸時代から現在まで、近江大津追分にて作られ、手軽な土産として全国津々浦々の人々に愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの面々は、多くの人々の想念の数々を端的に映し出すものである—— その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版をあげて解説した全大津絵の事典。

▶B5判・178頁／定価3,675円 ISBN978-4-7842-1425-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。